

# 様式10

## 令和4年度 指定管理者の管理運営に関する評価シート

### 1. 指定管理者（施設）の基本情報

<b>施設名</b>	みのお市民活動センター
<b>指定管理者</b>	特定非営利活動法人市民活動フォーラムみのお
<b>指定期間</b>	令和2年4月1日～令和7年3月31日
<b>施設概要</b>	非営利公益市民活動の促進を目的とする施設。会議用施設や活動用施設を市民等の利用に供し、市民活動促進のための各種事業を実施
<b>市支出額</b>	指定管理委託料…28,350,095円 ※税抜 キューズモール施設借上料…28,259,280円 キューズモール施設共益費…5,651,856円

### 2. 事業の実施状況

<b>情報収集及び提供に関すること</b>	ホームページの管理・運営（随時）、ニュースレターの発行（年2回）、グループガイドの発行（隔年 ※令和3年度末に発行し次回は令和5年度発行）
<b>講座の開催、その他啓発に関すること</b>	NPOフェスタ（年1回）、講座（年6回）
<b>相談に関すること</b>	各種専門家相談（年1回）、一般相談（随時）
<b>交流の促進に関すること</b>	利用者協議会、ぽんぽんファミリーひろば
<b>調査・研究事業</b>	公共的空間の活用
<b>支援に関すること</b>	市民活動支援金募集・審査・交付、報告会の実施（各年1回）、交付後のサポート等
<b>場所及び施設の提供に関すること及びセンター施設の利用に関すること</b>	開館時間：午前9時～午後10時 休館日：12月29日～1月3日
<b>その他施設を活用した市民サービス等</b>	箕面市災害支援ネットワーク会議、証明書発行業務（火曜～日曜日、年間559件発行）、期日前投票所会場提供（8日間）、プレミアム付商品件販売（2回（20日間、23日間））
<b>情報収集・提供（自主事業）</b>	メールニュース（月2回程度）、ホームページの管理・運営（随時）、ボランティア情報サイト管理・運営（月1回更新）
<b>団体の運営・活動に関する連絡、相談、啓発、支援（自主事業）</b>	活動・情報の交流会等の支援（まんどろ火祭り等）
<b>市民活動に関する人材育成（自主事業）</b>	ボランティア・実習生受入、高校啓発事業（週1回程度）等
<b>市民活動を促進するための社会的な環境の整備（自主事業）</b>	団体との連携（実行委員会等参画、映画上映会、）、ネットワーク構築（もっとネット会議、北摂ともにプロジェクト等）
<b>その他の自主事業</b>	来館啓発（ほっとコンサート：年1回、箕面在住アーティスト展：年2回、おさがり服の交換会：年3回）、中間支援組織の研修、震災復興支援活動、等

### 3. 利用者の満足度

#### （1）利用者アンケートの状況

<b>アンケートの結果概要</b>	男性51人、女性256人の合計307人から回答を得た。60歳代以上のシニア世代が61.2%と多くを占めるものの、30～50歳代も34.9%と一定の利用がある。ボランティア等に日常的に参加する人は17.9%だが市民一般を母数とするものと比べれば十分に高い割合である。予約受付方法で比較的不満が多いものの全般に不満はまれであり概ね満足いただいているといえる。
-------------------	---

## (2) 利用者等の意見交換会の状況

意見交換会の結果概要	施設を利用されている非営利公益市民活動団体メンバーの方8名（うち1名は2団体兼任）にご参加いただき意見交換を行った。講座等センター主催事業についての評価、延伸に伴う変更について質問、施設予約（抽選）に関する質問・意見等があった。
------------	--

## (3) 利用者からの意見を反映させる取り組み

取り組みの実施状況	利用終了時に提出される利用報告書のご意見欄や窓口で口頭にていただいたご意見・ご相談について、定期的に開催している内部会議で共有・検討し対応している。
-----------	--

## 4. 収支状況

令和4年度（2022年度）、法人全体としては経常収益35,405,549円に対し経常費用36,996,711円となり、税引後の当期正味財産は1,561,162円の減少となっている。利用の回復と値上げにより光熱水費の大幅増加、および最低賃金の引き上げ等に伴う人件費の上昇に大きな影響を受けているためであるが、現時点では前期からの繰越金の範囲の赤字でおさまっている。

## 5. 特別提案の状況

(なし)

## 6. 指定管理者の自己評価

利用者アンケートの結果からは、予約方法に関するものや備品に対する要望など指定管理者として応えることが難しいものがあるものの、多くの利用者のかたから肯定的な評価をいただいていることが伺える。一方自由記述の内容からは、非営利公益市民活動を応援するというセンターの本来の施設趣旨についてより一層周知していく必要性も感じられる。回答者の属性の傾向としては概ね昨年度のものと同様であるが、割合の少ない男性の利用者ではボランティア等へ参加している割合が高く（「日常的」「ときどき」を合わせて45.1%）、この施設の存在と男性のボランティア参加者との間には強い関連があるのではとも思われる。

意見交換会では、当センターが行う講座がNPOの運営に役立つものであったと評価をいただいた。また社会課題をテーマとする映画会ではそれをきっかけに活動への参加者との出会いがあったことをお知らせいただき、事業を通じてねらった効果を得ることができた。施設管理以外の事業では、公共的空間活用に関する調査研究事業の一環として前年度に1回開催した市民交流の場「Bar Bridge」を、隔月で3回開催し、かやのさんぺい橋交流スペースを活用した事業実施を試行した。また講座では、インターネットでの情報発信の重要度の高まりに応じてより重要度が高まっている「著作権」や「SNSの活用」をテーマとした講座、できたばかりの「労働者協同組合法人」に関する講座を行い、「トラウマインフォームドケア」に関する講座では定員を超える参加申込があり大きな反響があった。さらに「かやのさんぺい橋」を会場としたNPOフェスタも3年連続となり、コロナ禍でも中断をせずに毎年実施することができた。加えて施設を活用した来館啓発事業として指定管理者NPO主催で開催している「箕面在住アーティスト展」も久しぶりに再開し、これをきっかけに来館者を呼ぶことができた。

なお前年度の評価員合議でも意見があった、近隣他市の市民活動との連携や情報交換については、北摂6市の市民活動センター等運営団体が連携するプロジェクトに取り組むことを通じ、さらに進めることができている。

まんどろ火祭りなどコロナ禍によって中断していた活動も再開していき、会議用施設の稼働率もコロナ禍前の水準に近づいた。稼働率の回復と料金の値上げによる光熱費の大幅な上昇への対応が課題とはなっているが、適切な施設管理と非営利公益市民活動の応援に取り組みたものと思う。